

2024年度

**ラインジャッジ
マニュアル**

2024年2月23日 発行

公益財団法人日本バレーボール協会

審判規則委員会 指導部

『ラインジャッジの責務』

1. 試合前

(1) 試合開始1時間30分前までには、競技場に集合する。

(2) 競技場に集合したら、コート等の設営や試合に必要な用具等のチェックに積極的に協力する。

(3) 試合60分前にレフェリーミーティングが行われるので、ファーストレフェリー、セカンドレフェリー、スコアラー、アシスタントスコアラー、ボールリトリバー、モッパーと綿密に打ち合わせを行う。

(4) レフェリーミーティングには、レフェリーウェアで参加すること。胸には自分の公認された資格のワッペンを付ける。

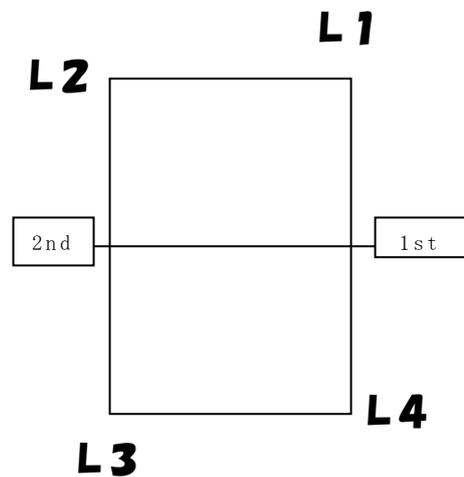
(5) レフェリーミーティングの前にラインジャッジは、誰がどのラインを担当するのか、また試合中のいろいろと起こるケースに対してどのような動き方をしたらいいのか、どのようにお互いに協力をしていくのかを事前に打ち合わせをしておくこと。特に、ファーストレフェリーに見えにくい所や、アンテナ外通過、フライングレシーブで床にボールが落ちたかどうか、ブロッカーやレシーバーのボールコンタクトがあった際の出し方等をよく打ち合わせておくとよい。

(6) フラッグの点検をする。

(7) 試合開始30分前には、スコアラーズテーブル後方に集合する。

(8) 公式ウォームアップ中、担当ラインの延長線上で、目慣らしをする
とよい。

(9) 公式ウォームアップが終了したら、担当の位置につき、ネットやアンテナが正しい位置に取りつけているかどうかチェックする。特にアンテナの取り付け位置については、ゲーム中でも十分注意する。



《図1》

2. 試合中

(1) ラインジャッジの位置

- ① 自分の担当するラインの想像延長線上でコート各コーナーから2 m 離れ、ラインを身体を中心に置き、視線はライン上に置くようにしてフリーゾーン内に立つ。エンドラインはライトサイドのコーナーから「L 2」・「L 4」が、サイドラインはレフトサイドのコーナーから「L 1」・「L 3」が統御する。(図 1)
- ② レフトサイドからのサービスの際は、サーバーの妨害にならないように、サイドラインの延長線上、サーバーの後方に移動し位置する。その際、サーバーのフットフォルトの有無に注意するため、横には開かない。

(2) ラインジャッジのフラッグシグナル

- ① 起きた反則を確実に判定し、速やかにフラッグシグナルを示す。ファーストレフェリーは、そのシグナルを確認して最終判定を示す。
- ② フラッグのポールに人差し指を添えてポールを握り、ひじが曲がらないようにまっすぐにフラッグを出す。まず構えた姿勢で判定を行い、すばやく姿勢を正してフラッグシグナルを示す。
- ③ 姿勢については、アウトオブプレー時は自然体でリラックスして立つ。また、サーバーがボールを打つてからは、移動しやすい低い姿勢をとり、目の位置を下げ、身体(腰)でボールを追う。目の位置が高くとボールを上から見ることになり、ボールと床の接点が死角となり、ボールがラインにふれているか明瞭に判定できない。低い姿勢が必要なときとそうでないときの区別をつける。サーバーがサービスゾーン後方から打つ時は、サーバー側のエンドライン担当のラインジャッジは、低い姿勢をとる必要はない。
- ④ フラッグシグナル(ボールイン、ボールアウト、ボールコンタクト、サーバーのフットフォルト等)のみ使用し、それをしばらくの間続けなければならない。
- ⑤ フラッグシグナルを出す場合(ライン判定をしっかりとってから)、身体とフラッグはラインに向け、顔だけをファーストレフェリーの方に向けて目をあわせ判定を伝えることが、お互いの信頼関係を保つ上でも非常に大切である。

3. 試合後

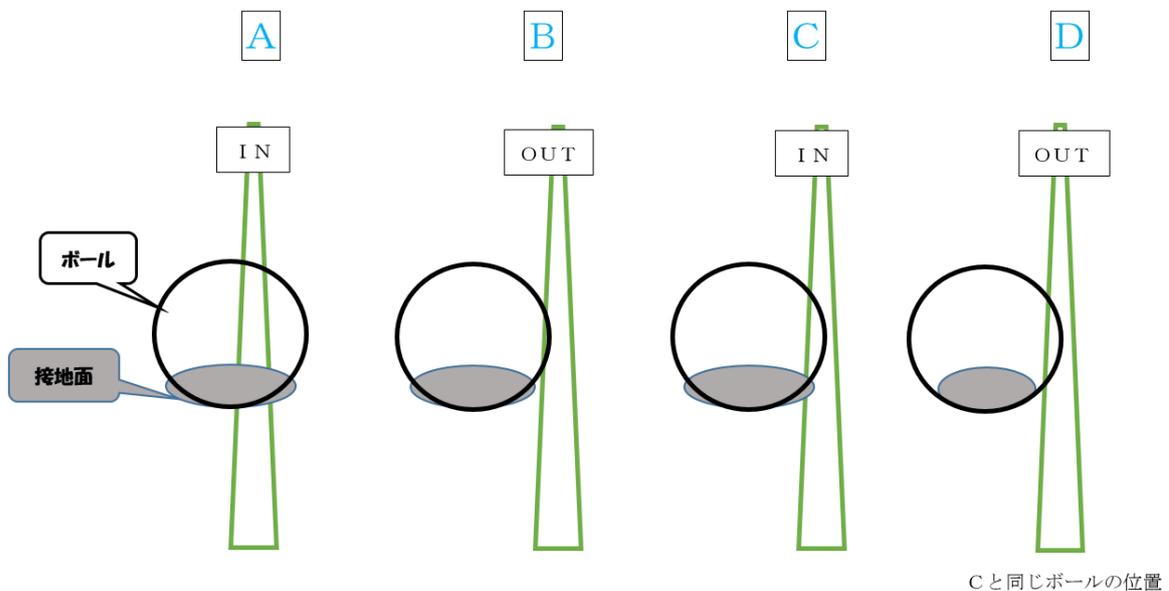
- (1) 試合が終了したら、スコアラーズテーブルの後方に集合し、ファーストレフェリー、セカンドレフェリー、スコアラー、アシスタントスコアラーと握手をする。
- (2) レフェリールームでファーストレフェリー・セカンドレフェリーからアドバイスを受けると良い。
- (3) 審判委員長より試合全体を通してのラインジャッジの任務についてアドバイスを受けると良い。
- (4) 最後にお互いにディスカッションをする。

『ラインジャッジの判定の仕方』

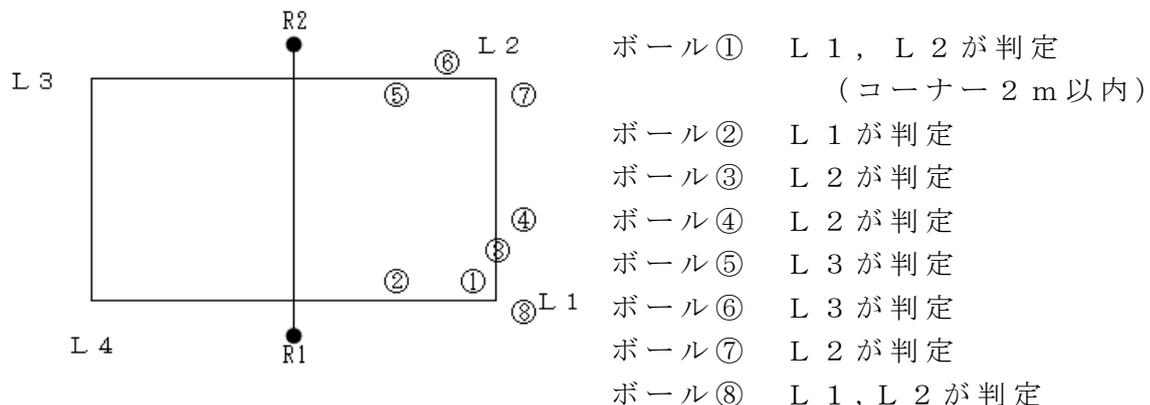
1. ラインに関する判定(ボールイン, ボールアウト)

- (1) ボールがライン付近に落下した場合は、そのラインを担当するラインジャッジだけがシグナルを出す。(1人1線が原則で「ボールイン」はライン2m以内とする)。各コーナーのコートに落ちた場合は2人のラインジャッジがシグナルを出す。《下図3参照》
- (2) ボールがインか、アウトかボールコンタクトかの判定は、速やかにシグナルを示さなければならないので、判定は躊躇してはいけない。シグナルが遅れると選手がアピールをする原因となる。
- (3) イン, アウトの判定は、最初はボールを見て、ボールが床近くに来たらボールから目を離し、ラインを見て判定をする。

《図2》『ボールと床の接点』 ※ラインの右側がコート



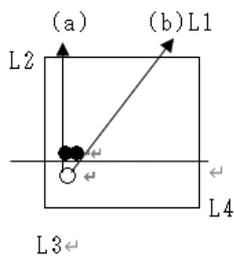
《図3》『コーナーのボールイン, ボールアウトの判定』



2. ボールコンタクトの判定

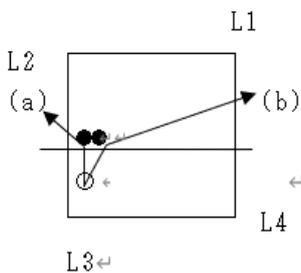
- (1) ボールコンタクトを認めた場合は、フラッグをあごの下でやや高めに旗を立てて旗の先を別の手で触れる。スパイクボールがコート内に落ちた場合は、ボールインのフラッグシグナルを出す。
- (2) ラインジャッジの任務は、まずライン判定である。ブロックのボールコンタクトに集中しすぎることなく、ボールより先にラインに目をやり、正確に担当ラインの判定を行う。
- (3) レシーバーにボールが触れコート外に出た場合は、担当ラインとレシービングサイドのラインジャッジがボールコンタクトを示す。
- (4) ボールがブロッカーに触れコート外に出たことが明らかな場合は、レシービングサイドのラインジャッジと担当ラインのラインジャッジのみがボールコンタクトを示す。
またスライスタッチでブロッカーにボールが触れコート外に出た場合は、ボールのコースによって、下記の要領で担当ラインジャッジがフラッグシグナルを示す。

① ボールがブロッカーに触れてエンドライン外後方に出た場合



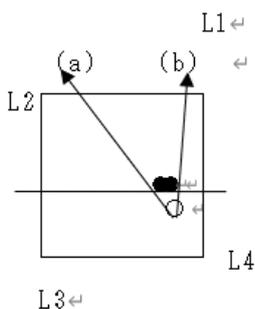
- (a) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。
 (b) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

② ボールがブロッカーに触れてサイドライン外後方に出た場合



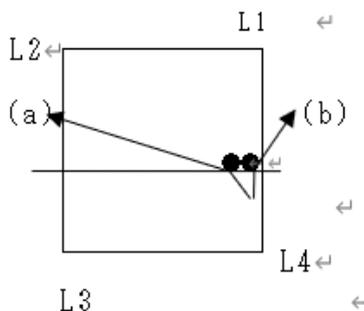
- (a) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。
 (b) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

③ ボールがブロッカーに触れてエンドライン外後方に出た場合



- (a) L1, L2, L4がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。
 (b) L1, L2, L4がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

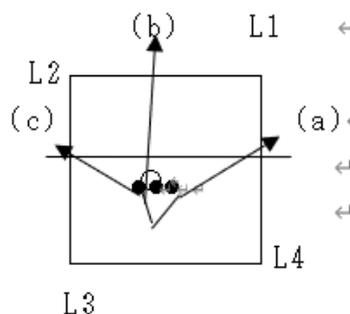
④ ボールがブロッカーに触れてサイドライン外後方に出た場合



(a) L1, L2, L3, L4がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

(b) L1, L2, L4がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

⑤ コート中央からのボールがブロッカーに触れてコート外に出た場合



(a) L1, L2, L4 がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

(b) L1, L2, L3, L4がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

(c) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

3. ボールが床に触れたかどうかの判定

(1) パンケーキのプレーで、自コートの床にボールが触れたことが確認できた場合は、ラインジャッジがシグナルを示す。

(2) フラッグシグナルは、ボールインのフラッグシグナルではなく、身体の前で、2・3回床をたたくシグナルで示す。

4. サーバーのフットフォルトの判定

(1) サーブを打つ瞬間の足の位置、及びジャンプサーブなどで踏切る足の位置がサービスゾーン外やコート内であれば反則となる。その判定はエンドライン担当のラインジャッジが判定し、サイドライン側であればサイドライン担当のラインジャッジが判定をする。

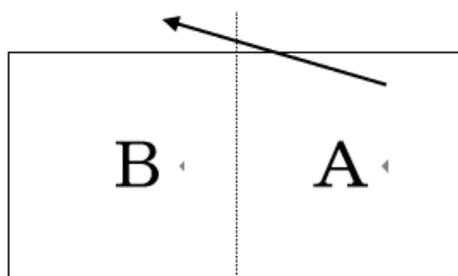
(2) フラッグシグナルは、頭上で旗を左右に1往復振り、片方の手でラインを指す。

5. アンテナ付近を通過したボールの判定

アンテナ付近をボールが通過する場合は、そのコースに対応するラインジャッジが、判定をするのが望ましい。その際、自分が担当するラインの判定に支障のない範囲（1，2歩）で動いて、ボールとアンテナの位置を確認し判定を行う。

(1) 許容空間外（アンテナの外側または上方）を通過した場合

① ボールがフリーゾーンやフリーゾーン外に落ちたとき。



a : チームの1回目・2回目の接触後の場合

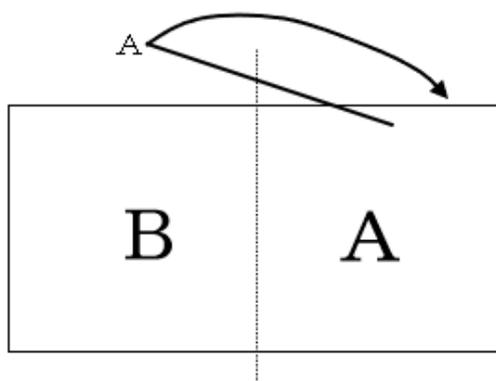
ファーストレフェリー :	落ちた瞬間にホイッスルをする。
セカンドレフェリー :	ホイッスルをしない。
ラインジャッジ :	落ちた瞬間に「アウト」を示す。

b : サービスボールまたはチームの3回目の接触後の場合

ファーストレフェリー :	ネットの垂直面を通過した瞬間に ホイッスルをする。
セカンドレフェリー :	〃
ラインジャッジ :	ネットの垂直面を通過した瞬間に「アウト」を示す。

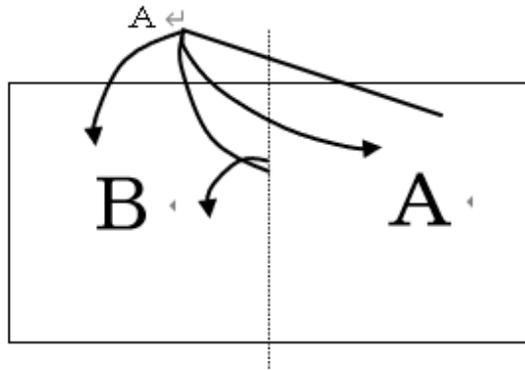
② Aの選手がボールに触れたとき。

a : 許容空間外を通過してボールを取り戻したとき



ファーストレフェリー :	ホイッスルをしないでラリーを続 行する。
セカンドレフェリー :	〃
ラインジャッジ :	フラッグシグナルは示さない。

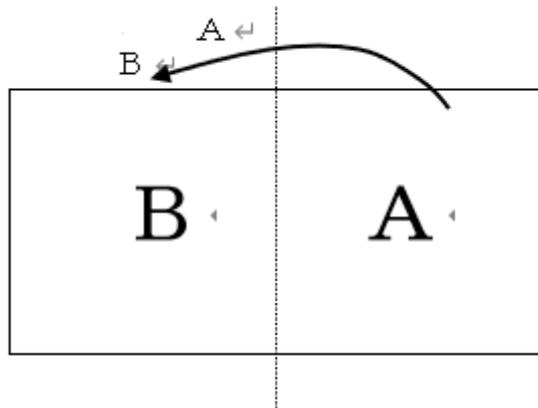
b : ボールが許容空間内を通過したとき。また、ボールがアンテナの内側のネットに触れたり、床に触れたりしたとき。



ファーストレフェリー：サイドライン上を完全に通過した瞬間にホイッスルをする。
 セカンドレフェリー：〃
 ラインジャッジ：サイドライン上を完全に通過した瞬間にフラッグを振る。(一往復)

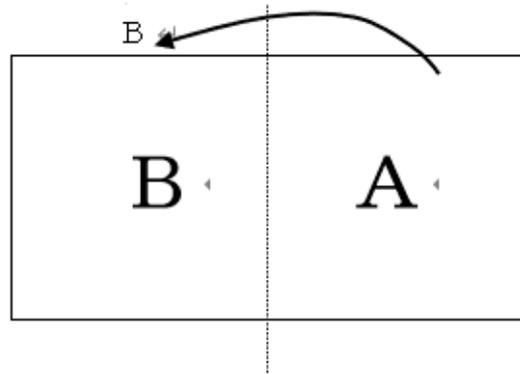
③ ボールがアンテナの真上や外側を通過してBチームの選手に触れたとき。

a : Aチームの選手がボールを追いかけている場合、Bチームの選手のインターフェアとなる。



ファーストレフェリー：Bチームの選手がボールに触れた瞬間にホイッスルをする。
 セカンドレフェリー：ホイッスルをしない。
 ラインジャッジ：Bチームの選手がボールに触れた瞬間にフラッグを振る。(一往復)

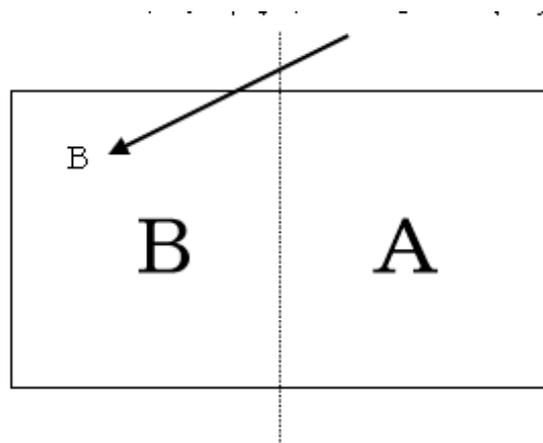
b : Aチームの選手がボールを追いかけていない場合



ファーストレフェリー：Bチームの選手がボールに触れた瞬間にホイッスルをして，Aチームのアンテナ外通過でボールアウト。

セカンドレフェリー：〃
ラインジャッジ：フラッグを振る。（一往復）

(2) Aチームのフリーゾーンから許容空間外（アンテナ上方を含む）を
通ってBチームのコートに向かっていく場合。

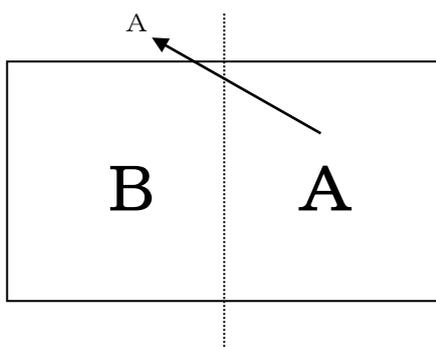


ファーストレフェリー：ネットの垂直面を通過した瞬間にホイッスルをする。

セカンドレフェリー：〃

ラインジャッジ：ネットの垂直面を通過した瞬間に「アウト」を示すか場合によっては，フラッグを振る。

- (3) Aチームのコートから許容空間を通過してBチームのフリーゾーンに向かって行く場合。



a : Aチームの選手がボールに触れたとき。

ファーストレフェリー：触れた瞬間にホイッスルをする。
 セカンドレフェリー： //
 ラインジャッジ：触れた瞬間にそのコースのラインジャッジがフラッグを振る。(一往復)

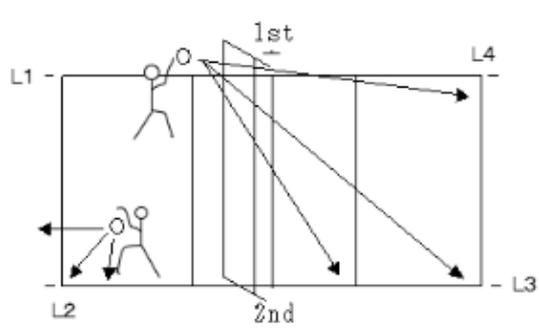
6. トレーニングマニュアル

- (1) レシーブボールが床に触れたかどうか

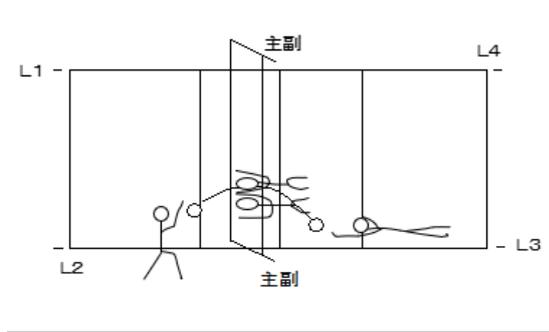
- ① ファーストレフェリー・セカンドレフェリーのアシストをしなければいけないので、低い姿勢でボールと床面との接点を見る。ボールが床面に触れた瞬間にフラッグシグナルを出す。
- ② タイミングが遅れ躊躇すると、選手のアピールのもとになるので十分注意すること。

★ライン判定

- a サイド，エンドラインにぎりぎりに打つ
- b コーナー(1m 以内) に打つ
- c 選手でボールが見えない時の判定



★床に落ちたボールの判定



a フェイントボール・tip playをフライングレシーブで手の甲でボールを上げる。

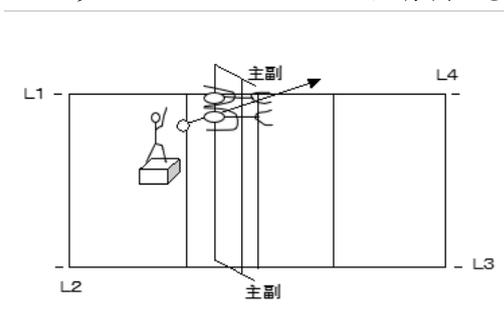
b ブロックカバーのプレイヤーの陰になってプレーが見えないケース。

(2) アンテナ付近をボールが通過する場合について

- ① 確認できたラインジャッジのみがシグナルを出す。
- ② ネット幅 1 m の間のアンテナに当たった時は、一番見やすい位置にいるラインジャッジが判定すべきである。

★ボールがアンテナに当たるケース

★ブロッカーがアンテナに触れるケース



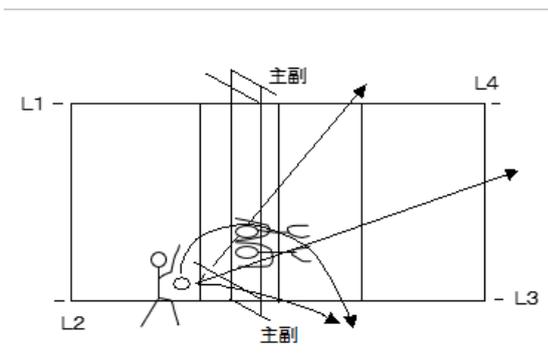
a 台上よりスパイクを打つ。

b アンテナぎりぎりに打つ。

c アンテナ外を通過するボールを取り戻すケース

★アンテナ外通過ボールを色々な角度から取り戻す。

★ボールの角度によって、どのラインジャッジがライン判定をおろそかにしないで、どのように動いたらいいのかを確認する。



※ ラインジャッジの動きに十分注意すること。ボールのコースに入るために、極端に動いてライン判定がおろそかになったり、またコースに入らないで判定すると不信感をもたれたりするので動く範囲を十分に確認する必要がある。

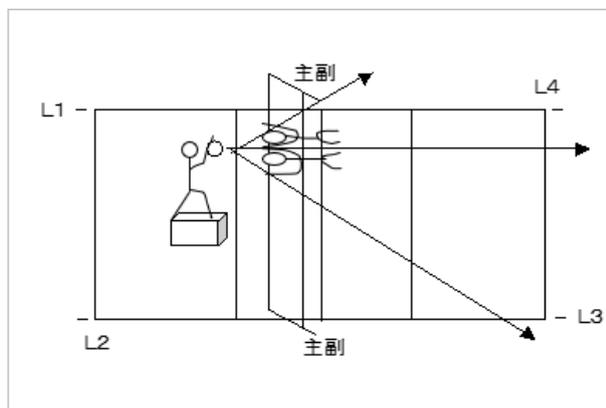
※ 取り戻されたボールが許容空間内を通過した場合は、フラッグを左右に振る。

(3) ブロッカーとレシーバーのボールコンタクトについて

- ① 特にブロッカーの上（指）をかすっていくケースや左右をかすっていくケースは、ファーストレフェリー・セカンドレフェリーからは非常に見にくいケースもあるので、原則的にはレシーブ側の2人のラインジャッジがフラッグシグナルを送る。しかし4人のラインジャッジが明らかにボールコンタクトを確認できた場合は確認したラインジャッジが、ボールコンタクトのフラッグシグナルを送る。
- ② アンテナ付近、特にセカンドレフェリーサイドでのアタッカーが意識してタッチアウトを狙うプレーのブロックのボールコンタクトはしっかりと見る。
- ③ スパイカーがボールをスパイクして、ブロックにはねかえったボールが、そのスパイカーに当たった場合
 - ・特にファーストレフェリーサイドで起こるケースは、ファーストレフェリーの死角になるケースが多いので担当のラインジャッジはしっかりと見ること。

★ブロッカーとレシーバーのボールコンタクト

- a 台上よりスパイクを打つ。
- b ボールがブロックの上をかすめるケースと左右をかすめるケース。
- c ライン際のレシーバーのボールコンタクトもファーストレフェリーの死角になるケースがあるので、ライン判定も十分注意しながら、視野に入れてみる大切である。



ビーチバレーボール補足資料

(前述に加え、ビーチバレーボール特有の責務及び判定を付記)

『ラインジャッジの責務』

1. 試合前

(1) 服装

- ① レフェリーウェアもしくは、支給された服装(支給がない場合は、全員が揃う服装が望ましいが、揃わない場合は、同系色の服装でも可能)を着用し、運動靴と靴下を履く。
- ② サングラスの着用も可能。

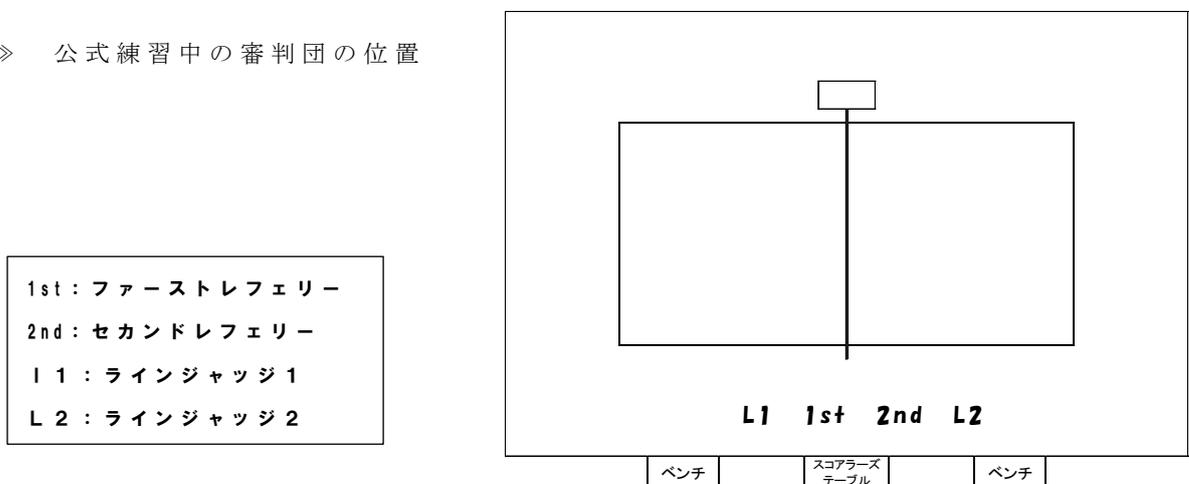
(2) 試合設定時間の20分前までに、また、前の試合が長引いた場合は、前の試合が終了する前に指定の場所に集合する。

(3) マッチプロトコール中は、スコアラーズテーブル前に整列する。《図1参照》
(4人の場合はL1・L2・ファーストレフェリー・セカンドレフェリー・L3・L4という位置で整列する。)

(4) 公式練習終了後、ファーストレフェリーがレフェリースタンドに向かうタイミングで競技エリア内の所定の位置につく。
(4人の場合は、L1・L2とL3・L4が一行に並んで所定の位置に向かう。)

(5) サンドレベラーがレーキをかけた後に、担当ライン上の砂を落とし、ラインの状態、アンテナ、サイドバンドに歪みがないか確認する。

《図1》 公式練習中の審判団の位置



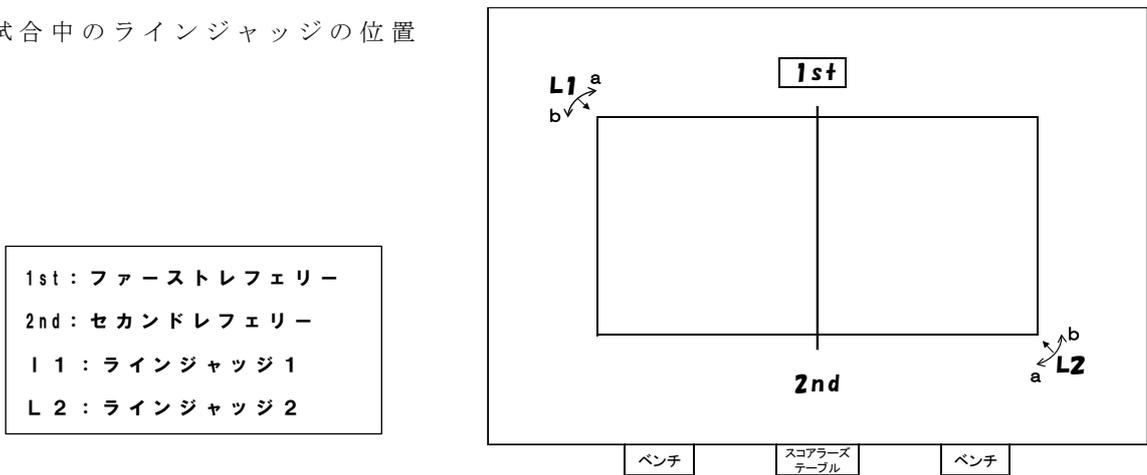
2. 試合中

(1) インプレー中のラインジャッジの位置

① ラインジャッジが2人の場合《図2参照》

- ・ファーストレフェリーとセカンドレフェリーの右側コーナーから、1 m離れた対角線の位置に立つ。
- ・それぞれ自身側のエンドラインとサイドラインの両方を判定・管理する。
- ・ボールが向かってくる方向によって、位置を変えて判定する。(左右1歩程度) エンドラインを判定するときはaへ移動し、サイドラインを判定するときはbへ移動する。
- ・自身側からの攻撃の場合には、原則としてbへ移動し、サイドラインの判定を中心に行う。
- ・自身側チームのサービスの際には、aへ移動し、フットフォルトの有無に注意する。

《図2》試合中のラインジャッジの位置



② ラインジャッジが4人の場合 (6人制・9人制と同じ)

- ・自分の担当するラインの想像延長線上でコートの各コーナーから2 m離れ、ラインを身体を中心に置き、視線はライン上に置くようにしてフリーゾーン内に立つ。
- ・エンドラインはライトサイドのコーナーから「L 2」・「L 4」が、サイドラインはレフトサイドのコーナーから「L 1」・「L 3」が判定・管理する。

(2) アウトオブプレー中や試合中断中の位置や動き

- ・ラリー終了時には、担当ラインの歪みやラインにかかる砂の凸凹を確認し、必要に応じて素早くライン及び砂の状態を修正する。
- ・風でラインが揺れる場合、ラリー終了時に、まずライン上から(状況に応じてライン下を)足で左右にスライドして、ラインと砂(地面)との凸凹を少なくする。それでも揺れが収まらない場合には、ライン上に拳大の砂山を作りラインの揺れを止める。
- ・タイムアウトやTTO、セット間は、サイドライン後方のフリーゾーン際まで(ラインの歪み等を確認しながら)コート側を向いた状態で下がり、自然体でリラックスした姿勢で待つ。(広告バナーがある場合には、文字等を隠さないようバナー間に立つ)その際、フリーゾーンコーナー外側に置いてあ

る各自の飲料にて速やかに水分補給を行って良い。

- ・ サンドレベラーがライン上にレーキをかけた後は、各コーナーに移動し、2人のラインジャッジでサイドライン上、その後にそれぞれがエンドライン上の砂を落とし、ラインを真っすぐにする。4人の場合には、「L1」と「L4」、「L2」と「L3」でサイドライン上を、次いで「L1」と「L2」、「L3」と「L4」でエンドライン上の砂をそれぞれ同時に落とし、ラインを真っすぐにする。

3. 試合後

- (1) レフェリースタンドの左右（ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの外側）に整列する。
- (2) ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの後についてスコアラズテーブル側に戻り、フラッグをスコアラズテーブルに置く。

『ラインジャッジの判定の仕方』

1. ラインに関する判定（ボールイン・ボールアウト）

- (1) 2人の場合、イン、アウトの判定はライン正面に移動して行うことが望ましい。ボールの速度が速く、ライン付近に落下する前に正面に移動できない場合には、移動することよりも静止して判定することを優先し、イン・アウトの確認を行ってから、フラッグシグナルを行う際に、ライン正面に移動する。
- (2) ラインにボールが接触すれば、ボールインの判定をする。
- (3) ラリー中、風や選手のプレー中の動きによって正常ではない位置にラインが動いた場合、たとえ大きく曲がっていても、ラインを基準にボールイン・アウトを判定する。また、ファーストレフェリーの最終判定が終わり、選手からのボールマークプロトコルの要求が無いことを確認するまでラインの修正は行わない。
- (4) ボールマークプロトコル時は、ファーストレフェリーにラインにボールが接触したか、接触しなかったかを明確に口頭で伝え、ファーストレフェリーに確認されたらボールが落ちた位置を手の平で示す。（フラッグや人差し指で指さない。）
※ファーストレフェリーが最終判定をしたあと、ファーストレフェリーとアイコンタクトをとりボールマークを消す。

2. ボールコンタクトの判定

自身側チームのブロックにおけるボールコンタクト（自身側コートにボールが入る場合）は、確実に見えた場合に限りラリー中もファーストレフェリーが確認できるように（2秒程度）フラッグシグナルを示す。

コートオフィシャル【ボールリトリバー】の役割について（参考資料）

1 服装

全員が揃う服装が望ましいが、支給がなく揃わない場合は、同系色の服装を着用し、運動靴と靴下を履く。支給される場合は、支給された服装を着用する。

2 試合前の集合時間

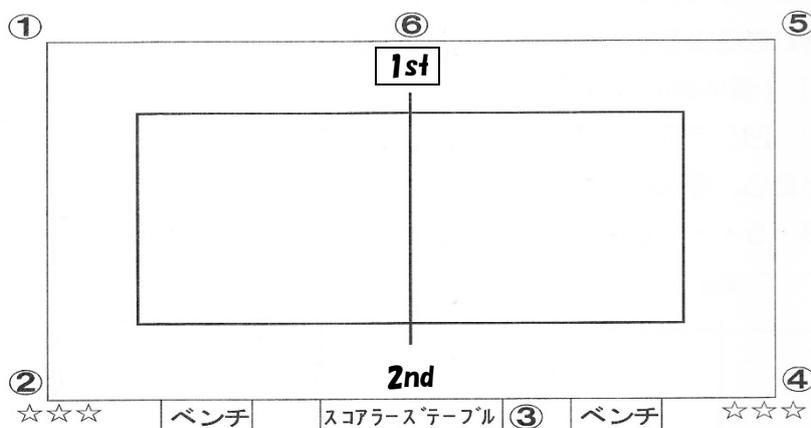
試合設定時間の20分前までに、また、前の試合が長引いた場合は、前の試合が終了する前に指定の場所に集合する。

3 人数

5～6名。（大会によっては、4人や3人で行う場合がある。）

4 主な業務

- (1) 前の試合が終了する前に指定の場所に集合し、ボールを拭くためのタオルをハーフパンツの左（または右）前に挟んで使用する。
- (2) 試合前及び公式練習には、選手たちの練習に対応し、エンドライン後方でボール拾いを行う。
- (3) 公式練習終了後、所定の位置につき、セカンドレフェリーから②と④とレシービングチーム側の①または⑤がボールを受け取る。
※第1セット開始時及び第3セット開始時は、セカンドレフェリーからサーバーにボールを直接渡す。
- (4) 配置は、下記の位置に待機し、スポンサーの看板が隠れないように注意する。（下図参照）
人数が3人の場合は①⑤⑥
人数が5人の場合は①②④⑤⑥
人数が6人の場合は①②③④⑤⑥
サーバーの一番近くにいるボールを保持している人がボールを渡す。



5 業務上、注意すること

- (1) サーバーにボールを渡す際は、ボールを必ず拭いてから、選手（サーバー）に渡す。
- (2) 速やかにボールを所定の位置に回すことが大切であるが、ラリー中にボールを絶対にまわさないようにすること。（レシービングチームが構えたり、ファーストレフェリーがサービスの許可をするために手を上げたら、ボールをまわすことは止めること）
※ラリー間が12秒あるので、ラリー完了後に所定の位置にまわすことができる。
- (3) ラリーが終わった時に、「次のサーブ権はどちらのチームか」ということを意識し、なるべく早くサーバーにボールを渡す位置にボールが行くようにする。
- (4) ボールを転がす時に砂面の凹凸により、コート内にボールが入る可能性があるので、気を付けること。
- (5) ハーフパンツの左（または右）前に着用したタオルで、速やかにボールを拭く。
※タオルをフェンスや砂面に置かないよう気を付ける。

コートオフィシャル【サンドレベラー(レーカー)】の役割について (参考資料)

1 服装

全員が揃う服装が望ましいが、支給がなく揃わない場合は、同系色の服装を着用し、運動靴と靴下を履く。支給される場合は、支給された服装を着用する。

2 試合前の集合時間

試合設定時間の20分前までに、また、前の試合が長引いた場合は、前の試合が終了する前に指定の場所に集合する。

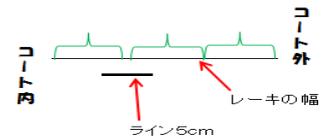
3 人数

6名または4名、大会によっては2名や、ボールリトリバーが兼ねることがある。

4 主な業務

試合前(前の試合終了後すぐに)、公式練習後、タイムアウト、テクニカルタイムアウト、セット間に(約40秒で)コートの砂地をきれいに均(なら)す。

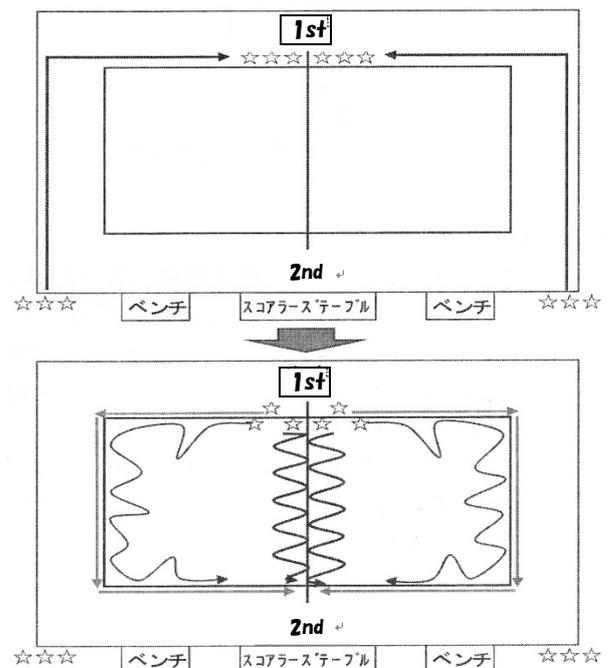
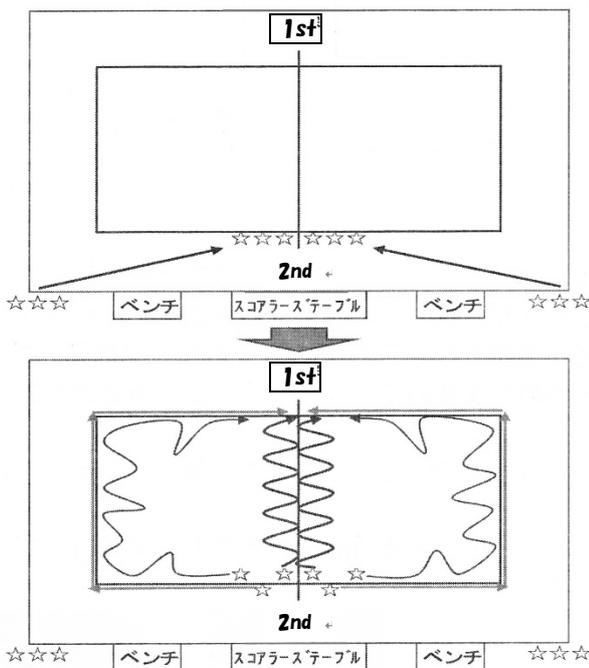
- (1) 試合中はコートサイドに待機し、上記の際、一斉にサイドライン上に走って移動する。
- (2) 1番内側の人から先にネット下からレーキ1本分離れた場所からネット下に向かって、掘ったり耕したりせず、表面だけを反対側担当者と交互に均す。
- (3) [4名または6名の場合] 2番目の人はネット下作業が開始したら、ラインの下が平らになるようにラインの上から均す。
※その際にレーキ全体の3分の2が、コート外になるように、レーキの位置を保つ。
- (4) [6名の場合] 1番外側の人から担当コートのレシーブ位置の凸凹をライン側から軽く砂を押しながら平らにする。
- (5) [2名の場合] ネット下とライン上の両方を均す。
- (6) 全員が終わったら、最初に立った反対側のサイドライン上に立って、一礼し、元の位置に戻る。



【1・3・5・・・回目】



【2・4・6・・・回目】



1回目にセカンドレフェリー側から始め、2回目はファーストレフェリー側から始める。その後も交互に行う。

※4名の場合、ネット下とライン上を均した後、時間があれば、サーブレシーブをする所も凸凹になっていないか確認し、凸凹の場合には、できる限り均すこと。